

鶏卵生産等のアンケート 調査結果について

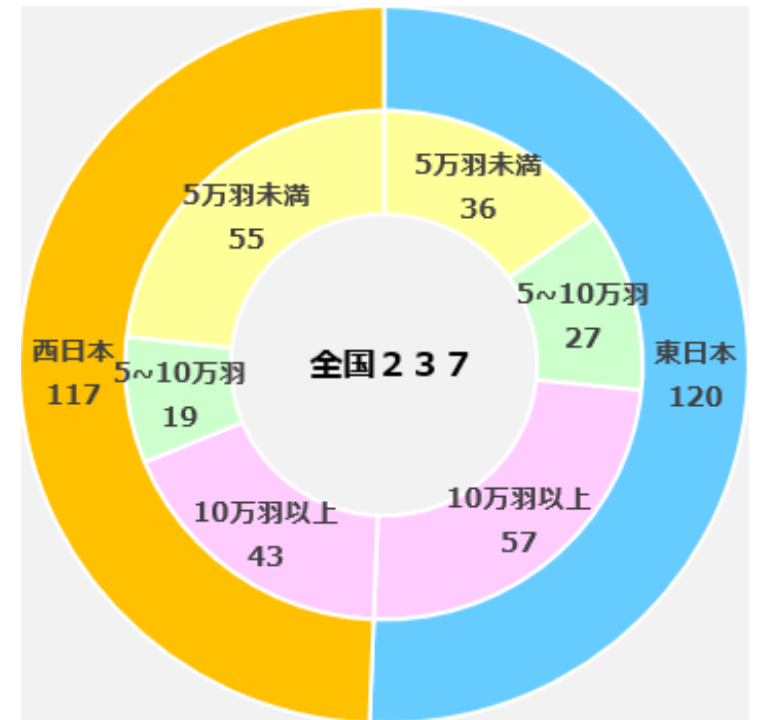
2023(令和5)年3月
(一社) 日本養鶏協会

アンケート調査の概要

※ 本調査は、令和4年9月30日～同年11月7日に実施しており、今後の景気動向や高病原性鳥インフルエンザの発生動向により、意向に変化が生じる可能性があることに留意

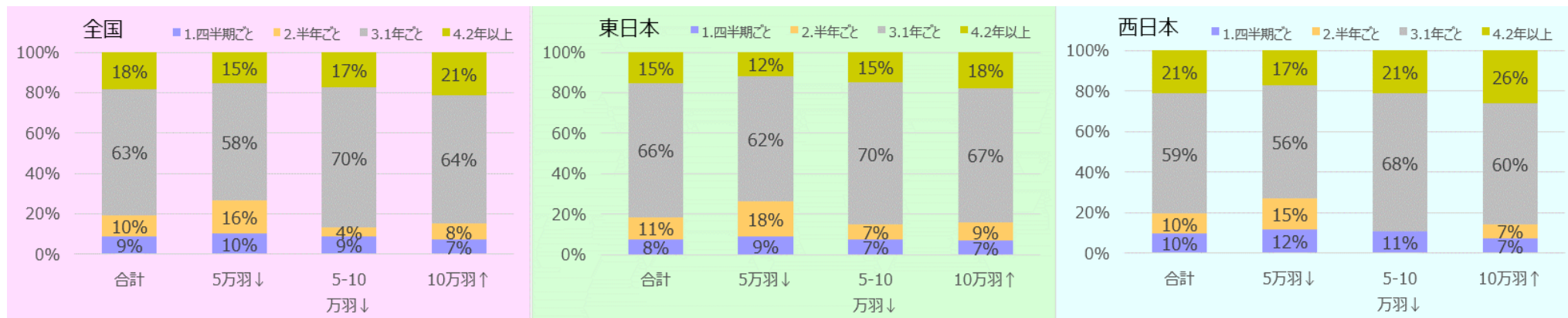
1 アンケート回収状況

- 鶏卵生産者経営安定対策事業加入生産者655名に調査をおこなった。
調査方法は、アンケート用紙を郵送し、FAX・郵送にて回収した。
- 調査項目
たまごの生産・出荷計画、販売状況等
飼養状況(ひなの導入、誘導換羽、成鶏更新参加)
今後の予定(飼養羽数の増減、販売先の計画)
- 回収:237名(回収率:36%)
全 国237名(100%)
[5万羽未満:91名、5万羽～10万羽未満:46名、10万羽以上:100名]
東日本120名(51%)
[5万羽未満:36名、5万羽～10万羽未満:27名、10万羽以上: 57名]
西日本117名(49%)
[5万羽未満:55名、5万羽～10万羽未満:19名、10万羽以上: 43名]



2 生産・出荷販売の計画

- 生産・出荷計画について、全国の飼養規模全体では、「1年ごと」が63%、「2年以上」は18%、「半年ごと」10%、は「四半期ごと」9%の回答となっている。東西では、西日本の全ての飼養規模において「2年以上」の選択が東日本に比べ多く回答されている。
- 飼養規模別では、5-10万羽↑、10万羽↑の、「1年以上(1年ごと+2年以上)」が87%、85%と共に長期的な計画設定をする回答になっている。



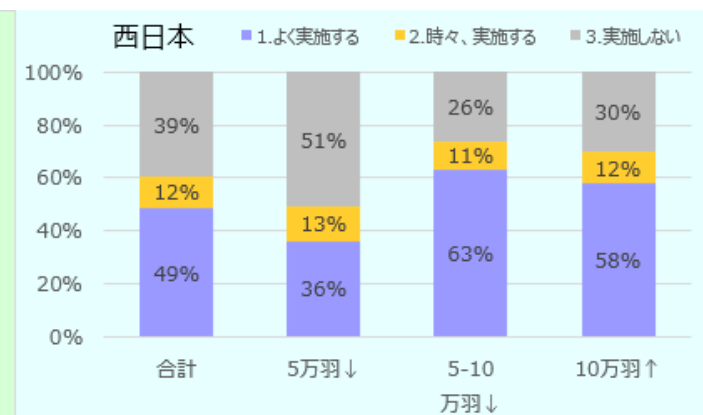
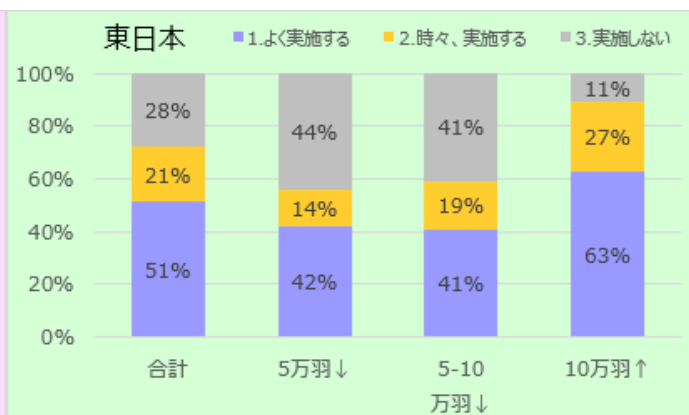
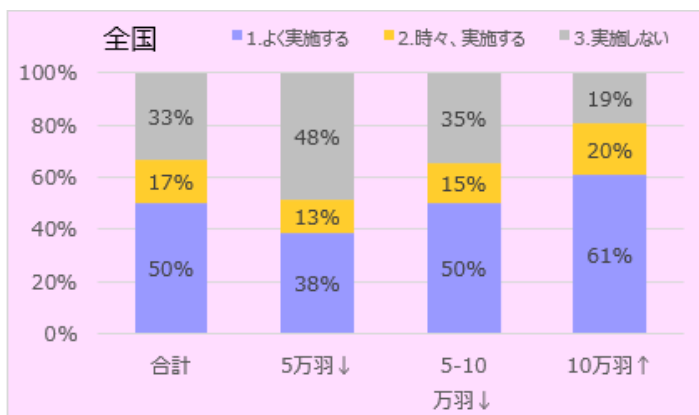
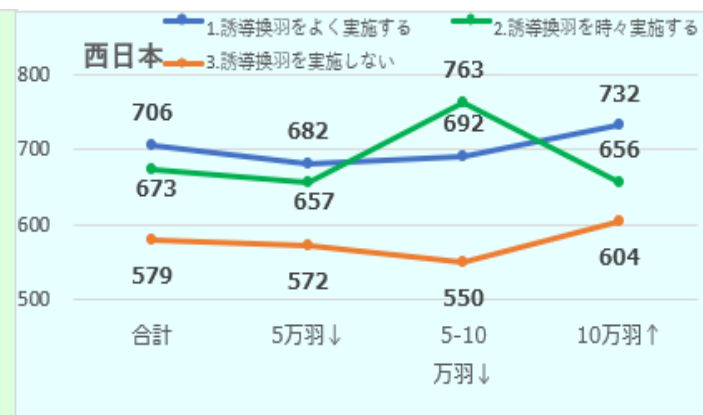
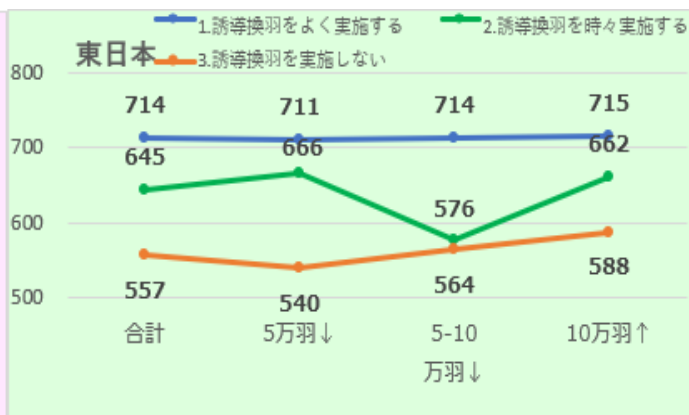
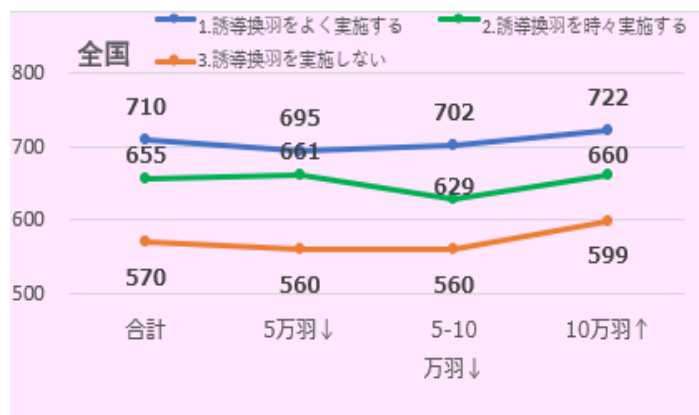
3 ひなの導入予定

- 導入時のロット数は、**全国平均7.5ロット**で、東日本より西日本が多い回答となった。
- 年間導入回数は、**全国平均6.2回(東日本平均6.2回、西日本平均6.3回)**の回答となった。
- ひなの購入予約は、**全国平均は導入の10.5カ月前(東日本平均:導入の10.7カ月前、西日本平均:導入の10.2カ月前)**の回答となった。
- 成鶏の飼養日齢は、**全飼養羽数平均656日(5万羽↓:627日、5~10万羽↓:643日、10万羽↑:687日)**の回答となった。
- 成鶏出荷後の空舎期間は、**全飼養羽数平均34日(5万羽↓:37日、5~10万羽↓:34日、10万羽↑:30日)**の回答となった。

- ①ロット数は、全国平均：7.5ロット（最大64～最小1）、東日本平均：6.6ロット（60～1）、西日本平均：8.4ロット（64～1）
- ②年間導入回数は、全国平均：6.2回（最大40～最小0.5）、東日本平均：6.2回（40～1）、西日本平均：6.3回（35～0.5）
- ③ひなの購入予約は、全国平均：導入の10.5カ月前（最大30～最小1）、東日本平均：導入の10.7カ月前（24～3）、西日本平均：導入の10.2カ月前（30～1）
- ④成鶏の飼養日齢：全飼養羽数平均656日（東日本：656日、西日本：655日）、5万羽↓：627日（東日本：631日、西日本：624日）、5-10万羽↓：643日（東日本：627日、西日本：668日）、10万羽↑：687日（東日本：687日、西日本：686日）
- ⑤成鶏出荷後の空舎期間：全飼養羽数平均34日、5万羽↓：37日（最大180～最小7）、5-10万羽↓：34日（0～60）、10万羽↑：30日（90～10）

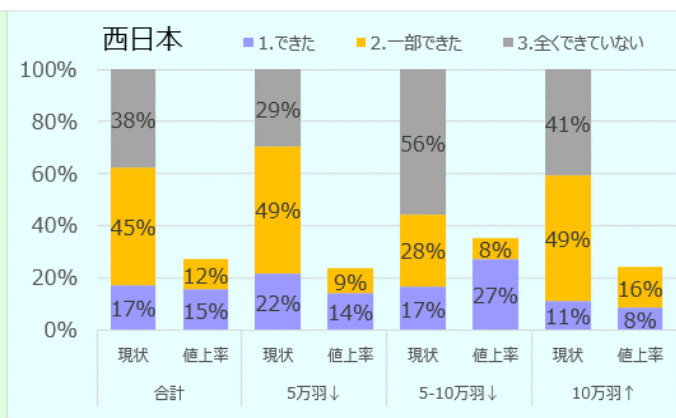
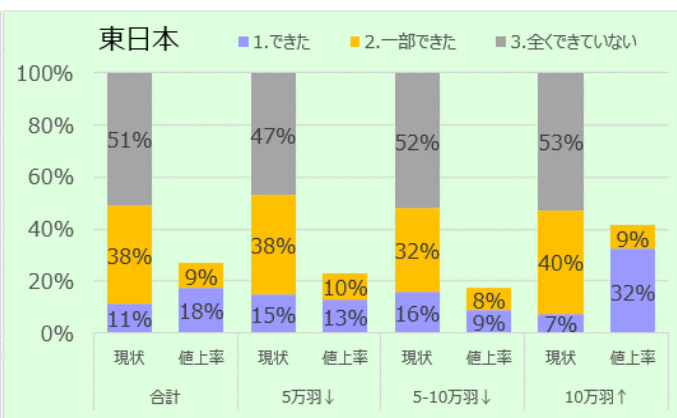
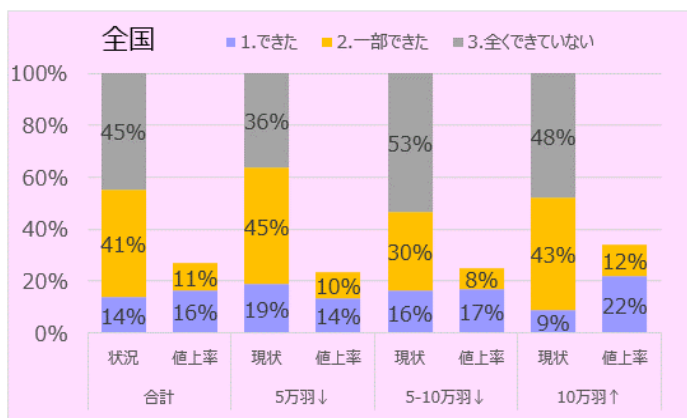
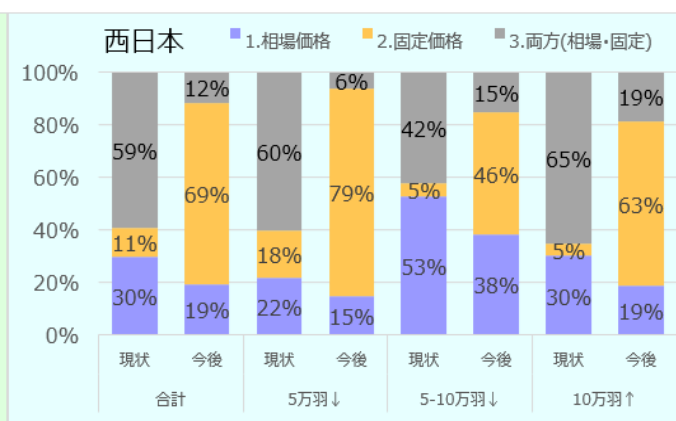
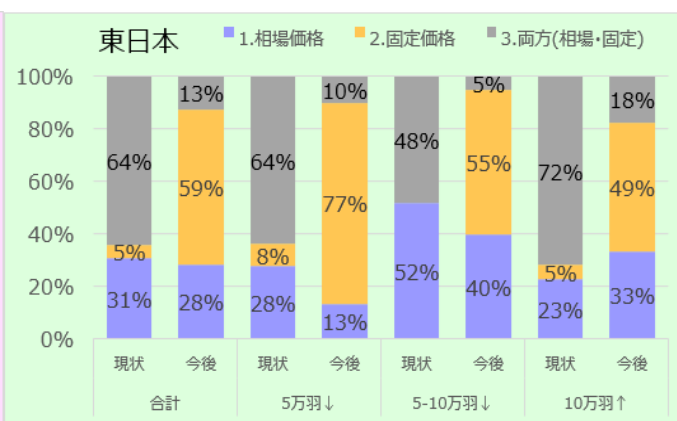
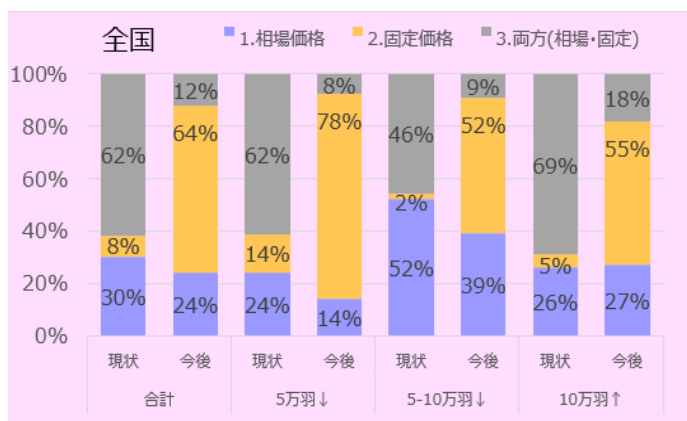
4 成鶏の飼養期間と誘導換羽

- 成鶏の飼養期間は、全国の飼養規模全体の平均では、「誘導換羽をよく実施する」710日>「誘導換羽を時々実施する」655日>「誘導換羽を実施しない」570日の回答となった。
- 誘導換羽の実施状況は、全国の飼養規模全体では、「誘導換羽をよく実施する」50%、「誘導換羽を時々実施する」17%、「誘導換羽を実施しない」33%の回答となった。
また全国では飼養規模が大きくなるに従い、**実施する(よく実施する+時々実施する)**が多くなる回答となった。



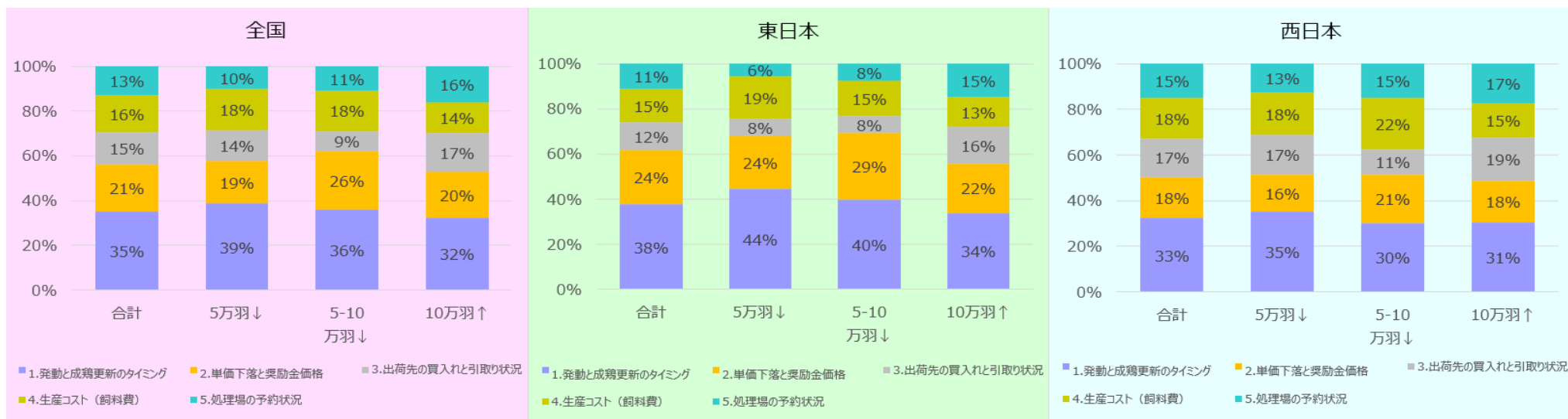
5 鶏卵の販売価格について[取引方法(現状・今後)、希望通りに価格転嫁できているか]

- 取引方法は、現状、全国の飼養羽数全体では、相場価格30%、固定価格8%、両方使用62%（両方使用の内、相場の割合は57%、固定の割合43%）で、今後増やしたい取引方法は、相場24%、固定64%、両方使用12%となり、飼養羽数別においても、固定を増やしたい意向の回答となっている。
- 価格転嫁については、全国の飼養羽数全体では、できた14%、一部できた41%、全くできていない45%となり、値上げ率ではできた16%、一部できた11%の回答となっている。また価格転嫁が全くできていない先は、東日本全体で51%と西日本に比べ多い回答となった。



6 成鶏更新空舎延長事業に参加するかどうかの判断基準について

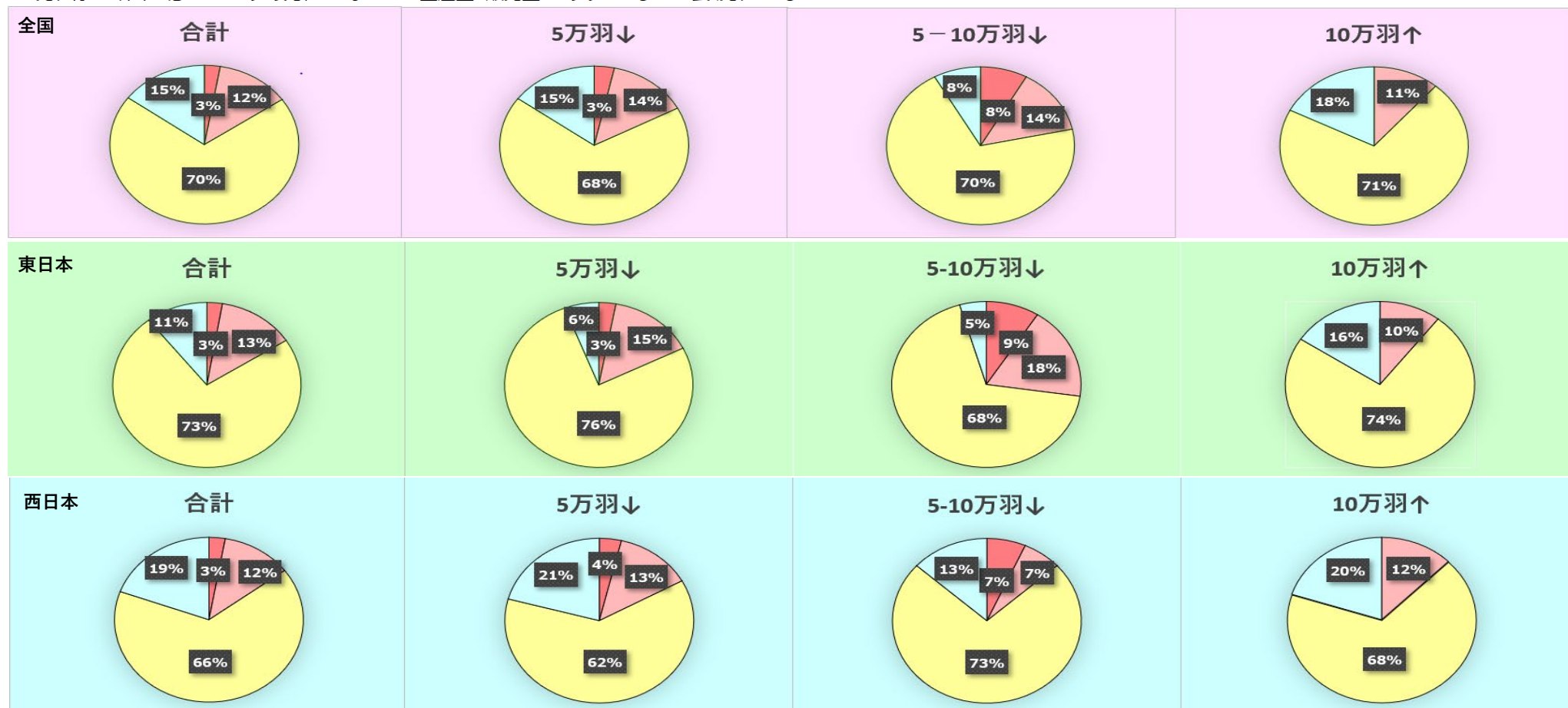
- 成鶏更新空舎延長事業への参加判断基準は、全国の飼養規模全体では、「発動と成鶏更新のタイミング」35%、「単価下落と奨励金価格」21%、「生産コスト(飼料費)」16%、「出荷先の買入れと引取り状況」15%、「処理場の予約状況」13%の回答となっている。
- 飼養規模別の回答では、判断基準の大きな変動はなかった。
*集計において、優先度1位:3、2位:2、3位:1にて算出。



7 たまごの販売状況

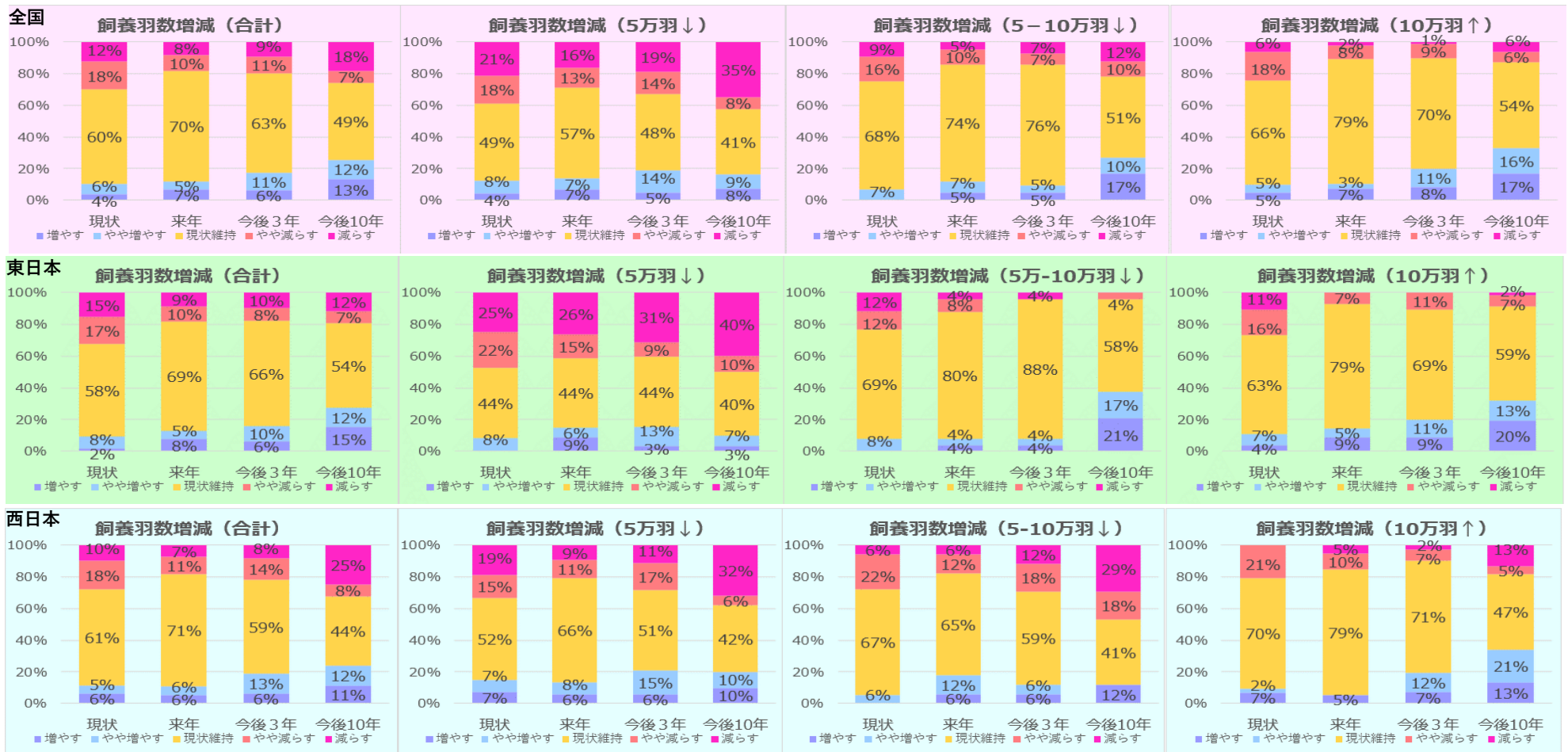
- 販売状況について、全国の飼養規模全体では、「売れている(つりあっている、良く売れている)」85%の回答となっている。一方、「売れていない(売れ行きが非常に悪い、あまり売れていない)」15%の回答となっている。
- 飼養規模別では、10万羽↑で、「売れ行きが非常に悪い」が、0%の回答となっている。

■ 1売れ行きが非常に悪い ■ 2あまり売れていない ■ 3生産量と販売量がつりあっている ■ 4良く売れている



8 飼養羽数の増減予定

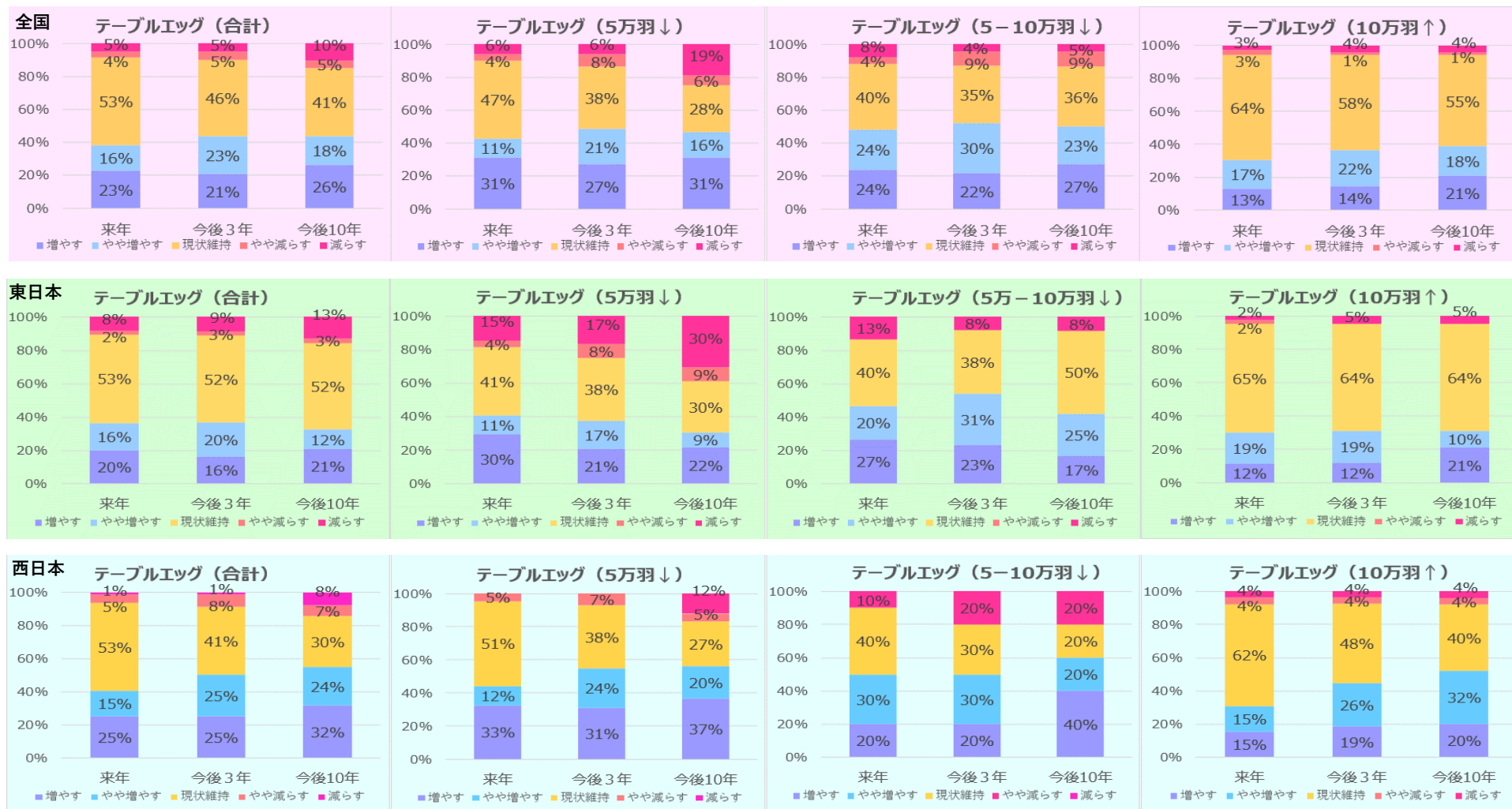
- 飼養羽数の増減について、全国の飼養規模全体では現状は、「昨年と比べ変化なし(現状維持)」が60%で、今後短期的(来年)には70%、中期的(今後3年)63%、長期的(今後10年)49%と減少傾向の回答となっている。一方、現状「増えている+やや増えている(増やす+やや増やす)」は、10%、短期的12%⇒中期的17%⇒長期的25%、同じく「減っている+やや減っている(減らす+やや減らす)」も、現状30%であるが、短期的18%⇒中期的20%⇒長期的25%と、増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万羽↓で、特に「減っている+やや減っている(減らす+やや減らす)」の回答が、現状39%⇒短期的29%⇒中期的33%⇒長期的43%と高い傾向になっている。



現状については昨年と比べ、増えている、やや増えている、変化なし、やや減っている、減っている にて表示。

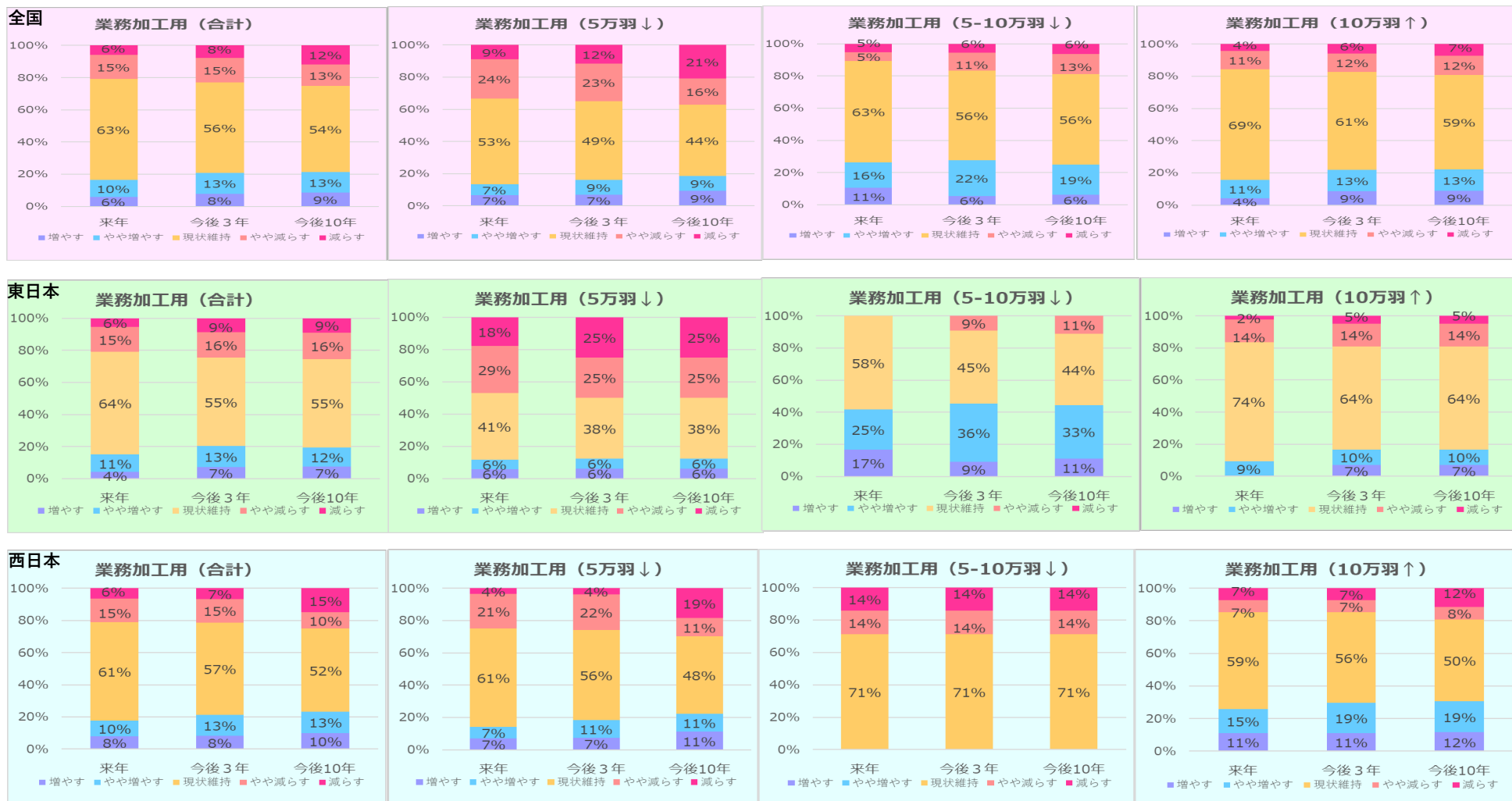
9 販売先の計画①

- テーブルエッグについて、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が53%を占めており、中期的(今後3年)46%、長期的(今後10年)41%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的39%⇒中期的44%⇒長期的44%、「減らす(やや減らす含む)」は、短期的9%⇒中期的10%⇒長期的15%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万-10万羽↓で「増やす(やや増やす含む)」の回答が短期的48%、中期的52%、長期的50%と一番高い回答となっている。



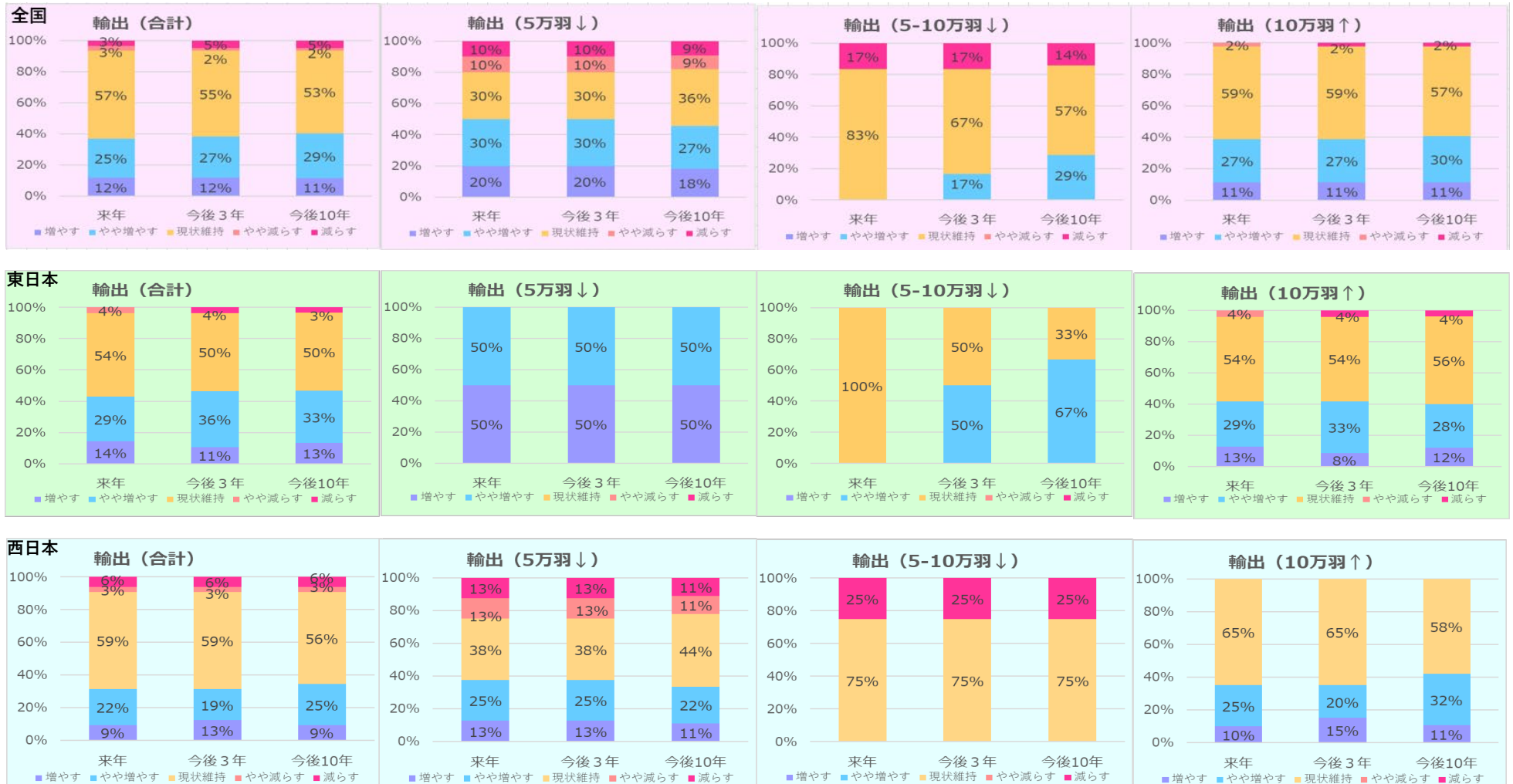
9 販売先の計画②

- 業務加工用について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が63%を占めており、中期的(今後3年)56%、長期的(今後10年)54%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的16%⇒中期的21%⇒長期的22%、「減らす(やや減らす含む)」は、短期的21%⇒中期的23%⇒長期的25%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万羽ー10万羽↓の東日本において、「増やす(やや増やす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、高くなっている。



9 販売先の計画③

- 輸出向けについて、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が57%を占めており、中期的(今後3年)55%、長期的(今後10年)53%と減少傾向の回答となっている。一方「増やす(やや増やす含む)」は、短期的37%⇒中期的39%⇒長期的40%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万羽↓及び10万羽↑で、「増やす(やや増やす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、38%～55%と高い傾向になっている。一方5万羽↓では、「減らす(やや減らす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、20%前後の回答となっている。



9 販売先の計画④

- 原料卵について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が65%を占めており、中期的(今後3年)61%、長期的(今後10年)57%と減少傾向の回答となっている。一方、「減らす(やや減らす)」は、短期的24%⇒中期的28%⇒長期的29%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別においても同様の傾向の回答となっている。

